

発行者兼編集者
 鵜 戸 神 宮
 社 務 所
 印刷所
 西 日 本 印 刷



神宮祭主 池田厚子様 御参拝 平成11年9月19日

謹
 賀
 新
 年

新嘗祭は、二月十七日の折年祭に五穀豊穣を祈り、神々の御恵みにより収穫された新穀を神々に捧げ、御恵みに感謝する祭儀で、日南、串間をはじめ南那珂郡内の各地区から献穀米、献酒、献菓子等が奉納された。又、かつて大漁・五穀豊穣・商売繁盛等を祈願する

十一月二十三日、午前十時三十分より新嘗祭・秋の縁日大祭が、午前十一時より斎行され責任役員、総代をはじめ崇敬者等多数の参列を賜った。

新嘗祭 秋の縁日大祭斎行



人々で賑わった縁日大祭が、四十五年ぶりに復活し、四月十一日の「春の縁日大祭」に続き今回は、新嘗祭に併せての「秋の縁日大祭」として斎行された。

祭典には、鵜戸小学校三・四年生による「こども神楽」、二十年ぶりに復活した「鵜戸さん獅子舞」が当宮職員により奉納された。参道には、春の縁日大祭と同じく日南物産フェアが開催され、終日賑わっていた。



こども神楽



物産展



獅子舞



こども神楽



宮司 杉田 秀清

ごあいさつ

新年明けましておめでとうございます。皆様には御家族お揃いでさわやかな新春をお迎えのこととおよろこび申し上げます。

平成十一年の神事は、歳旦祭より始まり、大祓式、除夜祭をもって、年間の諸神事恙なく斎行できました。わけても九月十九日には神宮祭主池田厚子様、大宮司久邇邦昭様のご参拝なされ、年間を通じ、社頭は参詣者で賑賑を極めました。境内の整備も進み、全般的に佳き年として収めることができました。これもご祭神の大徳威によることとはもとより、氏子崇敬者、皆様の厚きご信仰とご協賛の賜物と感謝申し上げます。

さて鵜戸神宮では、新しき年を迎えるに当たり、全員参籠し、潔斎して心身をきよめ、歳旦祭を元旦午前零時より厳修致し、ご皇室の弥栄、新しき年の平安と繁栄、皆様の幾久しい安泰をお祈り申し上げます。

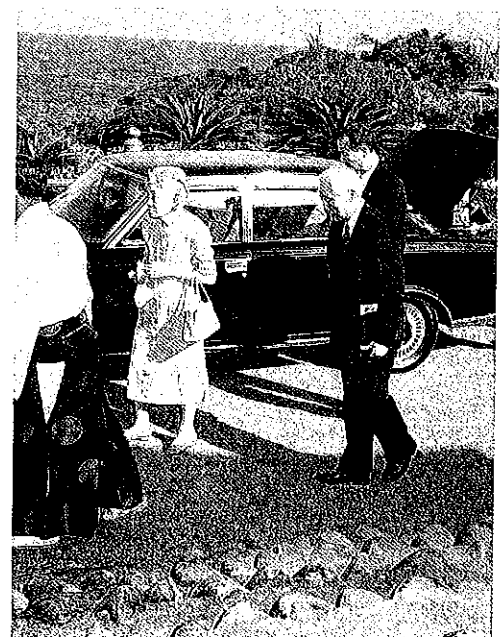
この数年間、政治も経済も教育も社会全体にひずみが出て、大変革をしなければならぬような時を迎えようとしています。一面では危機とも思える時もありますが、日本人の持つ叡知と努力でこれらは克服できると思えます。国旗、国歌が法制化されたのもその一つと思われまします。私共はこれから、日本人としての誇り、主体性を持って生きて行くことではありませんか。

鵜戸は、日照り輝く海、打ちよせる波濤、千古の社に包まれています。大神様は、霊窟の中の朱塗のお社に神しづまいます。どうぞ又、お詣りください。年頭にあたり、この年が希望に満たされた年となりますよう、そして皆様方の益々のご平安とご多幸を心からご祈念申し上げます(ごあいさつといたします)

神宮祭主 池田厚子様御参拝

前日の雨もあがり、日本晴れとなった九月十九日、神宮祭主 池田厚子様、神宮大宮司 久邇邦昭様が御参拝になられた。

当日は午後三時三十五分、祭主様、大宮司様、当宮に御到着。社務所前にて宮司、職員を始め、責任役員、氏子・崇敬者総代、敬神婦人会で御出迎をし、当宮職員先導のもと、御本殿へ参進。手水の後、正式参拝が斎行され、祭主様が御玉串を捧げられた。次に今年四十五年ぶりに復活した鵜戸さん獅子舞が演舞された。正式参拝の後、当宮宮司よりお乳岩、亀石、運玉等の説明が行われ祭主様、大宮司様も亀石に向かって運玉を投げられた。この後、儀式殿前にて、オガタマの木が記念植樹され、儀式殿にて御記帳の後しばし御休憩をされ、午後四時四十五分当宮を御出発された。

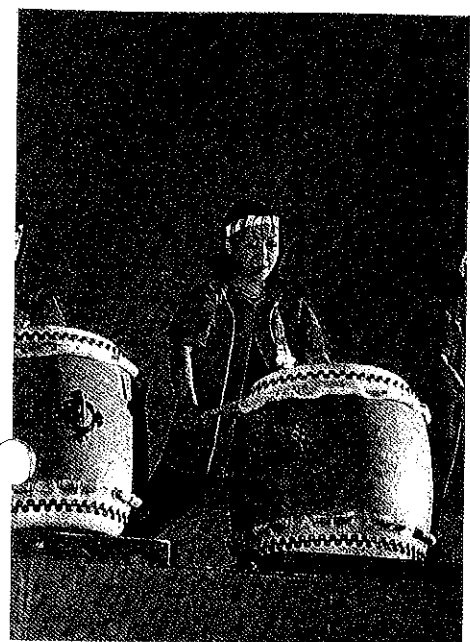


「和太鼓」に魅せられて

斎女 井上 まゆ子

幼い頃からお祭り大好きだった私が「和太鼓」に興味をもったのは、今年の春のことでした。女の人も一緒に太鼓を叩いている「駄肥和太鼓集団鼓禮」が地元日南にあると聞き、軽い気持ちで見学に行った私でしたが、太鼓の響きはもちろん、バチを打つその時の姿の勇ましさ、言葉では言い表すこともできない程の感動を覚えまし

てみようと思いはじめましたが、バチで指を叩いて血を流したり、手の平は皮が破れてボロボロになったりと、覚悟していた以上につらく厳しいものでした。「明るく楽しく」をモットーに夏まつりなど、地元各地で活動しておりますが、二人でも多くの方に、目で耳で、体で和太鼓の響きを味わってもらい、その素晴らしさを伝えることができたら」と練習にはげむ毎日です。



画家 井山忠行氏下絵制作

宮崎県出身で、インドネシアのバリ島在住画家 井山忠行氏が十月一日より十一月八日までの間、当神宮の社宅に入り、作品の元となる下絵を制作された。八枚のパネルに分かれた下絵は、作品の約二分の一の大きさで、鵜戸の風景の中に記紀神話の世界が、パステルと水彩絵の具で描かれている。作品は、縦約一六五センチ、横約十三メートルの大作となり、八枚のパネル(杉板)にアクリル

絵の具と油絵の具で描かれ、完成は平成十三年(二〇〇一年)の予定である。井山氏は、当宮司と中学・高校の同級生で六十三歳。高校卒業後、本県出身の瑛丸を中心に昭和二十六年に結成された「デモクラート美術家協会」に参加し、その活動の中で、瑛丸の思想の洗礼を受けた。昭和三十一年に協会は解散したが現在も精力的に作品を制作されている。



御神火祭齋行

宮崎県西都市の西都古墳まつり実行委員会より御神火祭の依頼があり、十月三十一日午前十一時より御神火祭が斎行され、実行委員会の十二名が古代の装束で参列された。火起しの儀では、斎主が火きり杵・火きり臼で火を起し、トーチに採火。この御神火は、高千穂町、高原町で起こされた御神火と、一所に西都古墳まつりで点火された。



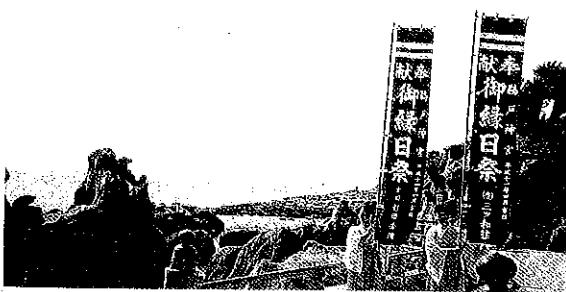
縁日大祭 幟旗奉納の御案内

当神宮では、毎月初卯の日に縁日祭を斎行していますが、昭和二十九年までは旧二月初卯の日に縁日大祭が執り行われ大漁、五穀豊穰、家内安全等を祈願する参拝者で大変賑わい、参道には数多くの幟旗が上がっていたといわれています。

縦二メートル五〇センチ、横五〇センチ
初穂料 壹萬貳仟円
縦四メートル五〇センチ、横七〇センチ
初穂料 貳萬円

詳しくは鵜戸神宮社務所まで
電話 ○九八七二一九一〇〇一

「春の縁日大祭」、十一月二十三日には新嘗祭に併せて「秋の縁日大祭」が斎行されました。春は舞楽・鵜戸さん獅子舞・シャンシャン馬道中唄・浦安の舞、秋には子供神楽・鵜戸さん獅子舞を奉納。又、春秋とも参道にて日南物産フェアが開催され、大変賑わいました。就きましては、神慮に感謝し往年のごとく参道に幟旗が上がっていたように、氏子崇敬者各位の幟旗の奉納をお願い申し上げます。※幟旗の寸法・初穂料は次の通りです。



鵜戸神宮で実習して

大社國學館

一年 野上 寿人

大社國學館に入學して早四ヶ月が過ぎ、初めての県外実習となる神社が、ここ鵜戸神宮でした。

私は宮崎県生まれで、しかも故郷、串間から近く、何度か参拝したこともあるのであまり緊張せずに奉仕することができました。

ここ鵜戸神宮での実習は、國學館で学んできたことは、少し違い戸惑いましたが、一日、一日と時間が過ぎてゆく中で次第に慣れてきました。それもここ鵜戸の職員の皆様方の御陰だと思えます。

私も神職を目指す一人として、ここで学んだ数多くのことを、大社國學館に帰っても、そして、これから的人生の中でも役立てて行きたいと思えます。

最後になりましたが、この一週間、鵜戸神宮の方々には本当に御世話になりました。本当に有り難うございました。

鵜戸神宮で実習して

大社國學館

二年 椎原 恒介

今回、こちらで実習させて頂くに当たり、私はこの鵜戸神宮について殆ど何も知らぬままに来てしまいました。

初めて鵜戸神宮に来て、日本には自分の知らなかった、由緒ある神社がまだまだ沢山あると思えました。

私は鹿児島島の出身ですが、一般に「日向三代」と言われる神々の中で、瓊々杵尊を祀る霧島神宮、彦火々出見尊を祀る鹿児島神宮は知っています。鵜戸草葺不合尊を祀るこの鵜戸神宮については殆ど知らなかった事を恥ずかしく思いました。

此処に鵜戸草葺不合尊の御陵墓である吾平山上陵がある事も初めて知りました。この実習中に、御陵にも案内して戴き、参拝者も殆ど上らない山道を汗だくにしながら登ると、ひっそりとした森の中に垣に囲まれた御陵墓がありました。

鵜戸草葺不合尊の御生

涯については、古事記にも詳しい記述は有りませんが、日本建国の祖神であり、御皇室の皇祖に当たられる方がここに鎮まつておられるのかと思えました。

鵜戸神宮には天皇陛下を始め、皇族の方々も過去に御参拝されていることも知りました。又、平成九年の遷座祭の時のビデオも見せて戴きましたが、著名な方々も参列されている事も知りませんでした。

私は全国の神社についても、知らない所が多いと思えます。私は二年生なので、来年卒業ですが、神職として社会に出る前に、今のうちにもっともっと知らなければならぬ事が多い事を、改めて痛感致しました。

最後に、お忙しい中をわざわざ私達生徒の為に時間を割いて、御教授や案内をして下さった鵜戸神宮の職員の皆様方に、心から感謝します。

七五三詣

十一月十五日は、七五三祝の日で古くから行われてきた日本特有の人生儀礼であり、今日までの子供の発育を神様に感謝すると共に、これからも健やかなる成長をお願いするお参りである。

一般に、三歳の男女は「髪置」、五歳の男子は「袴着」、七歳の女子は「帯解」の祝と云われている。

当神宮でも十一月に入ると、親子揃って七五三詣をする、晴着姿の子供たちが見受けられ、十五日は朝から元気な声が、境内に響き渡った。本年より当宮ゆかりのうさぎを、ぬいぐるみで準備。共に記念撮影をして写真を無料進呈した。



燈籠 うさぎの彫像奉納

今年、天皇陛下御即位十年と参道復旧の記念、又神恩に感謝して燈籠やうさぎの彫像の奉納があり、相次いで奉告祭が斎行された。尚、斎行日、奉納者は次の通り。

八月十日

宮司 杉田秀清、責任役員 田中 静、横山忠男、植野章一、山崎 勝、鬼東達朗、波越重利、和田 皓、津田宗治各氏より燈籠一基。(2)
育田時芳氏(日南市)より燈籠一基。(1)

九月八日

有限会社キッチン(日南市)代表取締役 石井勝範氏、会長 石井興八氏よりそれぞれ燈籠一基。(1)
有限会社 野口石材(日南市)代表取締役 野口 猛氏よりうさぎの彫像一基。(3)

十一月十九日

鬼東忠一氏(日南市)、太田

修養氏(日南市)よりそれぞれ燈籠一基。(1)

有限会社落合石材(日南市)代表取締役社長 落合孝章氏より燈籠一基。(4)

十一月二十四日

氏子総代 竹山真次、後藤満儀、長友治義、川瀬力丸、江口義雄、松浦秀夫、関屋寿美男、森今朝生、竹山三士、岩田義信、湯浅勝好、水元福美各氏より燈籠一基。(5)

十二月八日

日南黒潮ライオンズクラブ 高知黒潮ライオンズクラブより燈籠一基。



(1)



(2)



(3)



(4)



(5)



(6)

ランタナ奉納

七月十九日、鶺鴒を生息北限とするツマベニチョウウの吸蜜用にと、宮崎市在住の蛭原秀夫氏よりランタナの苗三十本が奉納された。これまでも、この蝶の吸蜜用にハイビスカスの苗やギョボクの葉しか食べない幼虫の為にギョボクの苗を奉納されている。

ツマベニチョウウは、日本産シロチョウ科最大級で羽の大きさは約九センチほど、インド、東南アジアなどに広く分布し、純白と鮮紅色の美しい蝶である。

日本では鹿児島県の開聞町で広く養蝶され、町の蝶に指定されている。



蛭原秀夫氏(写真奥)